

開発局の
低価格入札

発生率は0.1ポイント減の2.7%

策対報告
ダンピング道地協

札幌市で調査対象急増

北海道開発局と北海道、札幌市は19日、札幌市北区の札幌第一合同庁舎で、ダンピング受注対策北海道地方協議会を開き、各機関が07年度の低入札価格調査制度の実施状況などを報告した。開発局の低入札価格調査対象工事は前年度より9件減の67件、総入札件数2122件に対する発生率は2.7%で、同0.1ポイント減少した。

また、札幌市では低入札価格調査対象が8件増の15件、発生率も26.5%増の33.3%と急増している。

開発局の低入札価格調査の実施状況をみると、工種別の件数は建築が22件、塗装が10件、一般土木が9件、電気が7件、管が4件、機械装置としてゆんせつが各2件、鋼橋上部、造園が各1件。建築は前年度の9件から大幅に増加し、発生率も18.6%で8.3%上昇した。ただ同局では、2億円以上の一般土木、鋼橋上部、PSコンクリートで施工体制確認型を試行していることもあり、鋼橋上部では前年度の15件から1件に、PSコンクリートも1件からゼロに減少。

一般土木は前年度と同じ9件だが、前年度は3件あった予定価格2億円以上の工事はゼロだった。

道の低入札価格調査対象工事は前年度より1件増の2件だったが、発生率に対する発生率は2.7%増の5%だった。札幌市の低入札価格調査対象工事は、同8件増の15件、発生率は26.5%増の33.3%となった。最低制限価格該当工事は同6件増の320件だったが、発生率は0.5%減の19%となった。